

講話「いろいろの子ども」 2

倉橋惣三

氣の粗い子

(一)

前號に「氣の弱い子」こいふお話をいたしました。その反對になるものは即ち「氣の強い子」であります。心の性格の駈りした強味のある子供であります。それは眞に理想的な子供であります。今日お話をいたします「氣の粗い子」こいふのは、一寸考へます。こいふ「氣の弱い子」の反對の、「氣の強い子」のやうでありますが、實はさうではない子ごもであります。心の中はやはり弱いのでありますが、外へ現はれて來るまごころが、誠に荒つほいのであります。その荒つほいこいふこごが、何うして起るかこい申します。要するに外から色々與へられます刺戟に對して、心が早くこれ

に興奮し易いのであります。心は靜かの中から働いて來べきであります。外から與へられる色々まごころに反應しまして、心にもないやうな興奮状態になり易い子供であります。これを外の言葉で申しますれば、激し易い子供、即ち易激性の子供こいふやうなこごも申せます。大人の場合で申しますならば、疝癩持ちこいふやうなこごになります。或は氣の早い人こいふやうなこごにもなりません。即ち何でもないこごを直に激して來まして、心にもない粗い態度を外に現はして來ます。多分さういふ場合には顔は眞赤になります。手も震へて來ませう、遂ひ亂暴な言葉も口走つて來ませう。實に靜かなしつこりした趣を失なつて終ふのであります。

さういふ疝癩の強い子供は自然その結果こしては、粗暴

にならざるを得ませぬ。粗暴いふのは詰り心にありますものが、直に手足に現はれて來まして、謂はゞ手の早い子供さいふやうなものであります。直に人に打つ突かつて行く、人を叩く、或はそこらにあるものを直に投げ付ける、随分手荒らなこころがあります。

凡て心は神經の働きから申しまするに、中へ入れて來ます方の働き、それを外へ出して來ます方の働き二つある。さうして強い健康な精神の所有者でありますならば、多少氣に入らぬこころが心の中へ入つて來しても、それを中心の中に蓄へて置くだけの力がある。蓄へて居る中にそれを自ら静めて行くこころも出來るのであります。心の中に何か起れば直にそれが手足に現はれて激しい亂暴な振舞になるこころが、竟りそれ等の抑へる力が足りない譯であります。斯ういふ子供は單に亂暴をいたしますばかりでなくして、遂には段々に慘忍、慘酷ざんこくいふやうな趣を備へて來るこころがあります。勿論普通の子供さいふは、そんなに心の奥底から、性質の根底から慘酷、慘忍な人間さいふ譯ではないのであります。然し段々にさういふこころをいた

して居りまするに、相手に向つて慘忍なこころを面白く覺えて來る、その面白味が一種の癖になりまして、そこまで行かなければ心が満足しないやうなこころになる、初めは唯その時その時の所謂向つ腹を立てまして、相手を打擲する、相手を蹴る、時には抓る、搔撈るさいふやうなこころだけすれば、その時の氣が濟む譯であります、先方が虐められて困つて居るこころが一種の快感を此方に起させて來るやうになります、そこまでぎゆう／＼云はせなければ氣が濟まぬさいふやうな悪い癖になる譯であります。

年下の者を虐め抜く子供があります。家に居る女中さんや、召使の人々に随分しつ／＼こころを虐めたりする人もあります。斯ういふのは子供のこころでありますから、本當に憎むべき慘酷性さいふではないのであります。謂はゞさういふこころに面白味が向いて終つたさいふやうな譯合であります。單に亂暴慘忍さいふやうな外へ向つての仕向け方ばかりでなくして、これが少し意味を變へて來ますさいふ、凡ての人に向つて反抗して行くのが面白さいふやうなこころにもなります。これは唯その時の氣紛れで

むらく／＼して來て亂暴を振舞ふさいふ方よりは、少し心の中へ入り込んで來たこゝであります。始終誰かに向つて楯を突いて行くさいふやうなこゝに興味を感じて來るのであります。勿論子供はそんなに皆んな素直なものではありません。親は時に依ります。子供に無條件で従順服従を要求したしたりいたしますけれども、子供の元氣な生々した氣持としては、さう人形のやうに従順におこなしくして居るものぢやない、然しその多少強情を張り、多少云ひ付けに反いて突つ掛つて來るさいふやうなこゝも、子供らしいその時その時の心持であるならば、餘り深く憂ふべきこゝでもないのですが、それが一つの性格に近づいて來まして、反抗そのこゝを樂しむさいふやうになります。さいふも、心配をしなければならぬのであります。竟り斯ういふ種類の子供は強さうに見えて實は弱い心の持主でありますから、自分で自分の心を獨り保つて行くさいふやうなこゝがむづかしい、絶えずそこに反抗の相手を置いてそれと打突り合ひ、それと相對して居るこゝろに自己を生かして行くさいふやうなこゝになるのであります。その結果

してはあらゆるこゝに向つて一種の危險的なこゝでも申しませうか、或は大人の言葉で申しますならば革命的なこゝでも申しませうか、始終外へ打突かつて行くこゝを、その性格の習慣とするさいふ風になるのであります。さうなります。詰り誰かを捕へて相手にして喧嘩して居なければ面白くないさいふやうな風になります。事件がありましたその後で腹が立つて、そこで喧嘩をするさいふやうな位のこと、寧ろ子供にして當り前のこゝであります。元來が誰かを始終相手として、それに對して反抗的な態度を取つて居なければじつとして居られないさいふやうな性格になりましたならば、これは誠に困るこゝであります。

普通の子もしては、そこまで行くこゝは少ないのでありますけれども、その時に依りますさいふも、さういふ憂ふべきこゝもないこゝも限りませぬ。

そこでさういふ種々な現はれ方をいたしますが、これを總括して申しますさいふも、その精神の働き方は實に發作的ださいふ一つの共通點を有つて居ります。發作さいふ

のは自分で靜かに考へて自分の心の中から或る振舞、所作をするこいふのでなく、相手から仕掛けたことに唯言葉を返すやうに―響を返すやうに反撥して行く、その働きであります。そこでその結果としては、その子ごもの實際よりも強いところが出て終ふのであります。平生はさういふ風のことには出来さうもない亂暴なことをひよつこしたりする。或は自分でも何故あんなことをしたか後に考へるやうなこごもある。即ちその子供の本來の性格がその儘に出て來たのでなくして、外からの仕向けられ方に對して、その時その時の發作になつて現はれて來るのであります。若しも全體が發作的であるこいたしますならば、さういふ心は決して強い心ではない云はなければならぬ。發作的に生活するこいふことは、要するに自ら自己を抑へて居る働きの鈍つて居るのであります、その點に於て實に弱い云はなければならぬ。

前講に考へました「氣の弱い子供」こいふのは心を外に働き出して行くこころの、その力に於て缺けて居つたのであります。心理的に申しますならば、意志の發動能力に於て

缺けて居つたのであります。發作的な子供はさうではありませぬけれども、心で自分を抑へて行く方の力に缺けて居るのであります。心理的に申しますならば、意志の抑制作用に缺けて居るのであります。恰度大人でも酒に酔つたこいふやうな人が、如何にも景氣の好い、威勢のいゝ思ひ切つた振舞をする「なに恐ろしいものか」、「かまふものか」こいふ風に、反抗的に粗暴に種々なことをする。人も大變に強いこごだ云つたりいたします。自分では酒の力で強いこごをして居るこ考へたりする。能く酒の勢を籍りてさういふこごをしたりする人は、それで自分が強くなつて居るのだと思つて居るのでありますけれども、申すまでもなくそれは心の本當の働きとしては少しも強くなつて居るのではありません。アルコールの中毒に依つて精神の抑へる力が麻痺して來て、そこで自分としてはあられもない所作に出たに過ぎない。平生は腹も立ち、疝癪も起りましたが、自ら抑へる力がある爲に亂暴なこごをしない。それが酒の爲にその抑制力を麻痺された結果に過ぎないのであります。酒を飲んで暴れて居る人は強さうに見えて、全く弱くなつ

て居る最も著しい例であります、子供の場合に於て氣荒らな子供といふものも、例へばさう云つた風の關係にあるのであります。

(二)

そこでさういふ子供は何ういふ譯から起つて來るか、これは簡單に説明して終ふことは困難でありますけれども、一面には生理的原因があることもありません。生れ付きその子供の神経が弱い爲に、凡てが發作的になるといふこともありません。然しそれは生れ付きであるといひましたし、生後の境遇に依つてもさういふ風なことになるものであらうかと思ひます。その生後の境遇なるものを考へて見ますと、これにも種々違つた場合があるやうであります。先づその一つは小さな時から我儘放題に育てられまして、一度も自ら自分の心を抑制する我儘我が心を抑へる、我慢するといふやうなことを經驗せず育て終ひます。さういふ風になるのであります。前講に、可愛がられ過ぎて育つた子供は自立、獨立の勇氣を失ひまして、氣の弱いものになるといふことを申しましたが、詰り意志に及ば

す關係としては同じであります、我儘放題から外へは思ひ存分な振舞をするのであります、自ら自己に對する訓練といふものが少しも出來ずに居る譯であります。しかもその我儘に育ちました子供は、單に自分で自分を抑へることが出來ないといふばかりでなく、始終そんな無茶な生活をいたして居りますから、精神全體の靜かな落付きを失ひまして、始終いら／＼したぢれたやうな性質になることがあります。我儘に育ちました子供は幸せのやうに見えて、實は非常に不幸なのであります、その不幸は自ら自分の心を抑へるこの出來ないといふばかりでなく、始終自分の心をいら／＼させて居なければならぬといふやうなところに、最も不幸な點があるのだと思ひます。昔の話などには我儘放題に育てられた殿様などは、傍のもの為何にもその心を抑へることをしない。そこで思ひ存分なことが出來て幸せのやうに思はれるに拘らず、彼れもこれも自分の本當の心を満たすものがなくして、始終いら／＼とした状態に居るといふやうなことを小説などで見ますが、我儘に育てられた子供には何もなくさういふ趣がある。殊に我儘放

題に育てられた女の子なりに、外へ出してさう亂暴はしないけれども、心の中は荒み切つて居る子供があつたりします。外へ向つて粗いさういふのではないが、心の中が粗くなつて居るのであります。

それからまた、矢張り環境的原因ですが、自分の傍の者が全體さして發作的に氣荒らな人々が多いと、子供もやはりさういふ風になるやうであります。喧嘩つ早い人々の子供はやはりさういふ傾向を帶る。殊にさういふ人々の間では我慢をしないでぎん／＼やつつけて終ふさういふやうなこころを景氣の好い、威勢のいゝ、いなせなこころださういふ風に考へたりして居る、或る意味に於ける喧嘩の早い江戸つ子堅氣さういふやうなものの中には、さういふ風なのがあるこころもあると思ひます。そこでさういふ家庭に育ちました子供は、自分は必ずしも我儘に育つたさういふ譯ではないのであります。不知不識の間に、さういふ傾向を獎勵され、助長され、さういふのが偉いのださういふ心持も養はれまして、さういふ傾向を生ずるのではないかと思はれます。

そこで斯ういふ子供は何ういふ風にして、教育して行つ

たら宜いか、これは今まで考へました斯ういふ子供の心持ち、その原因なごから考へまして、既に明瞭なこころであります。要するに自ら抑へる力が足りないのでありますから、その力を養つて行けば宜いかと思ひます。その力を養ひますには本當は子供の心の中からその力を養つて行かなければならぬ、心の中からその力を養ふには相當に長い間かかつて性格そのものを作り變へるやうな根本の教育をしなければならぬのであります。然し外からさういふ心に悪い影響を少なくして行かうさういふ意味のこころも亦必要であります。斯ういふ子供は前にも申しました如く、外からの刺戟に感じ易いのでありますから、外の刺戟を餘り多くないやうに穩かな生活の中に置くさういふこころも必要であります。殊に又さういふ子供は段々に荒つほい、亂暴なこころそのこころに趣味を感じて居るのでありますから、さういふ趣味を他の趣味に變へて行くさういふやうな仕向け方も必要であります。殊に能く新聞なきで見ますこころの、活動寫真を見て來て、此頃流行の所謂ちやん／＼ばら／＼の亂暴な舞臺を見て來て、それで子供が色々亂暴になつた

こいふやうなこころなきを考へ合せると、それ等のこころ即ち何ういふものを見せるか、何ういふものを讀ませるか、何ういふこころ聽かせるかこいふやうな種類に就ても餘程考へて置かなければならぬと思ひます。

こころで、斯ういふ子供の問題は根本としては意志の問題でありますが、前に憐れこいふやうなこころで一寸申上げました如く、單に自らを抑へる力の足りないこいふこころばかりでなく、遂には憐れそのものが面白くなるこいふ意味は、即ち感情がさういふ風に荒れて來て居るのであります。そこでさういふ傾向の見えて參りました子供に對しては、やはり感情を和けて優し味の教育こいふやうなものをして置く必要が大いにあるのであります。例へば優しい人形の世話をさせるとか、或は小鳥を飼はせるとか、或は草花の世話をさせるとか、斯ういふ優し味の方に屬するこころの遊びをさせまして、荒み切つた荒つほくなつたその感情に色合を付けて置くこいふこころも非常に大事であります。

(三)

さて斯ういふ子供は氣の弱い子供に較べますこいふこころ、所謂意氣地なしでもなし、今日の世の中に立つてぐんぐん鼻つ端強くやつて行くのを出來る子供のやうでありますが、又廣く考へますと、今日の世の中は大體に於て斯んな風な大人を以て充滿して居ると云つても宜いのであります。子供の問題として考へましたけれども、これを大人に移して見ますと、自らを抑へるこころの出來ない發作的な易激的な荒つほい心の持主が、所謂世の中に相當の位置を占めて居る大人の中にも非常に多いのであります。これは生存競争の荒くなりました、又昔からの落付いた習慣が弱つて來ました、又現代のこの激甚な都會生活の中に居るこいふやうなこころが、段々に人間の心をさういふ風にするこころであらうかと思ひます。殊に今日の世の中には可なり反動的な反抗的な氣分が非常に社會を制して居るのであります。其中には勿論從來の間違つたこころに對して訂正を加へなければならぬこいふ意味に於て必要なこころもありませうけれども、こいふこころは靜かに考へ、靜かに判斷して、止むを得ざるが故にさうした態度に出来るこころのやうな落付いた

心持であつて欲しいのでありまして、感情そのものにしては、やはり靜かな落付きを失はずに居たいのであります。時代が時代であれば尙更さういふ傾向を持ちたいのであります。殊に私の近來痛切に感じて居りますこゝは、我國の青年期の者が、近來甚だ荒^あび、荒んだ心になつて居るやうに見えます。社會全體がさうでありますから、自らさうなるこゝも止むを得ないのでありますが、もう少し心の何處かにしつこりした、落付いた氣持を有つて育つて貰いたいと思ふのであります。今日の青年の實に無作法な粗野な状態は、これ等の人に依つて築かるべき將來の我國の社會に對して甚だ憂はしく思ふ點もあるのであります。世の中が斯うなつて來まして、その點を少しでも憂へますからには、一人々々の子供を、その子供の幸福の爲に教育するばかりでなく、社會全體を築いて行くものとして、その缺點に對して、各家庭に於て注意する必要も大いにあらうかと思ふのであります。元來が氣早で、落付きの何方か云へば少ない國民性であるのでありますから、それがこの現代さういふさまざまの生活に觸れて來て居るのでありますから、教

育は尤もその點に意を用ひて、激甚な現代の生活に闘ひ得る、然しながら性格そのものにしては粗野でないこころの人間を作るこゝに力を盡さなければならぬかと思ひます。

